中心に，計40種近くの生育が知られるが，そのモノグラフの研究は古く宮部金吾博士による“昆布科：1–60，北海道水産調査報告巻之三”北海道殖民部水産課刊行（1902）（この書は後に英文に翻訳され On the Laminariaceae of Hokkaido の題名で1957年北海道大学農学部より出版されている）がある程度で，その後まとまった研究や出版物はなかった．著者の川嶋博士は道立水産試験場在勤の頃に，北大理学部時代の恩師山田幸男教授よりコンブ類の研究を強く薦められ，同時に数十葉のコンブ類の単彩画の提供を受け，爾来この藻群について注意を払ってきたが，特に1985年定年退官後はコンブ類研究に専心してきたという．本書には千島列島産5種を加え合計39種類のコンブ類が収録され，それらのほぼすべてにA4判変形の1ページ大の図があり，さらに学名，異名，分布，形態，生態，その他の特徴，製品用途，学名の解説，および図の説明の解説文が添えられる．最近コンブ類は，食品や海中林の構成海藻あるいはウニやアワビの餌料としてだけでなく，生理活性物質探索の対象あるいは新しいバイオマス利用資源としてなど，多くの注目を浴びるようになっている．本書は，著者が願ったように，単なる分類図鑑としてだけでなく，もっとコンブを知りたい人，あるいはコンブ利用の実際に携わる人達にも優れた参考書となるであろう．本書はまた日本産コンブ科植物の分類学研究の集大成でもある．この学問分野への寄与は極めて大きく，先の宮部博士の場合のように，英文版の刊行が期待される．
（千原光雄）

□西澤一俊：**海藻と成人病予防** 183 pp. 1993. 研成社，東京．¥1,300.

著者は先に同じ出版社より「海藻の本—食の源をさぐる—」と題する本を出版したが，今回は，健康食品や成人病予防の観点から海藻を記述したもので，幾つかの項目をあげると，海藻に含まれるアルギン酸の血圧調節機能，ラミニンと血圧，フコステロールの血圧低下能と抗血液凝固活性，海藻の食物繊維，褐藻の有機型ヨウ素，緑藻，褐藻，紅藻のヘパリノイド，血糖値を低下させるオバクサタンパク質，海藻のビタミンと抗生物質，海藻のミネラル成分と有効性などがある．著者はよく薬理実験や疫学的調査などのデータを集め，成人病予防によい海藻主要成分とその機能について解説している．ともすると難解な記述になりがちな領域であるが，広く一般向けと言うことで，解説は平易で理解しやすい．類書に乏しいだけに貴重な出版物と言える．
（千原光雄）

□Ohno M. and Critchley A. T. ed.: **Seaweed Cultivation and Marine Ranching** 151 pp. 1993. Kanagawa International Fisheries Training Centre, Japan International Cooperation Agency (JICA). ソフトカバー ¥2,000, ハードカバー ¥2,500.

日本は古くから海藻をよく利用する国であり，そのことから特に利用出来る海藻についての応用研究は盛んで，ノリ，ワカメなどをはじめとする海藻栽培の技術は諸外国の追随を許さないものがある．しかし残念なことにその技術を解説した本のほとんどすべては日本語版であり，日本人以外の目に触れることは少なかった．本書は，海藻栽培と利用の理論と実際を研修するために来日する開発途上国の人々の Training Course 用に，JICA の援助を得て作られたもので，執筆者は9名（うち日本人5名，フィリッピン人3名，南アフリカ人1名）で，11章から成る．日本の海藻栽培が中心であるが，外国，例えばフィリッピンのキリンサイ栽培なども紹介され，各章は次のようである．序論－海藻資源，ヒトエグサとアオノリの養殖，クビレズタ，コンブ，ワカメ，オキナワモズク，ノリ，キリンサイと *Kappaphycus*，オゴノリ属，人工海藻礁の造成，海草と海洋牧場におけるその役割．最近，寒天やカラゲーナン原藻としての海藻，健康食品としての海藻，生理活性物質探索源としての海藻ということで，海藻に注目をもつ外国人も少なくない．時宜を得た刊行物である．なお購入希望者は高知大学海洋教育研究センター大野正夫氏（781-11 高知県土佐市宇佐町井尻194）に直接申し込むこと．
（千原光雄）

□Bird C. J. and McLachlan J. L.: **Seaweed Flora of the Maritimes 1. Rhodophyta—the Red Algae** v＋177 pp. including 65 plates. 1992. Biopress Ltd.,